

資料展

自由律俳人

尾崎放哉のすがた

デジタル化資料の活用にあわせて

この展示では、鳥取県を代表する自由律俳人・尾崎放哉に関する書簡や写真を原資料とデジタル化資料で紹介いたします。

また、今年度デジタル化した資料の高精細画像や、デジタル化資料の魅力や活用方法をお楽しみください。

(資料は鳥取県立図書館所蔵)



おさき ほうさい
尾崎 放哉 自由律俳人

明治18(1885)年1月20日生、大正15(1926)年4月7日没。鳥取県吉方町(現在の鳥取市吉方町)に生まれる。本名秀雄。

自由律俳句の最も著名な俳人のひとり。

鳥取一中(現在の鳥取西高校)入学頃より句作を始め、校友会雑誌『鳥城』への投稿を行う。第一高等学校、東京帝国大学とエリートコースを歩みながらも、大正12(1923)年からは仕事も家族も捨てて各地を転々とするが、小豆島の南郷庵で没する。この間に発表された作品は多くの人の心をとらえ、熱烈なファンが多い。

終焉の地である小豆島には、「尾崎放哉記念館」がある。

【代表句】「咳をしても一人」「入れものが無い両手で受ける」

2019年 1月19日(土) → 2月3日(日)

開館時間 火～金/午前9時～午後7時 土・日・祝日/午前10時～午後6時
【休館日】1月21日(月)、1月28日(月)、1月31日(木)

米子市立図書館2階 市民ギャラリー
米子市中町8 (電話 0859-22-2612)

ギャラリートーク 1月20日(日) 午前11時～、午後2時～(各回1時間程度)

